

第4期

幕別町子どもの読書活動推進計画



図書館公式キャラクター

令和5年4月
幕別町教育委員会

目次

第1章 基本的な考え方

1	計画策定の趣旨と背景	1
2	基本理念	1
3	計画の性格	2
4	計画の期間	2
5	計画の対象	2
6	計画の体系	2

第2章 「第3期計画」の成果と課題

1	アンケート調査より	3
2	成果と課題	4
	2-1 「第3期計画」における成果	
	2-2 「第3期計画」における課題	

第3章 子どもの読書活動推進のための方策

1	本と出会う機会をふんだんにつくります	8
	1-1 家庭における読書活動の推進	
	1-2 地域全体における読書活動の推進	
2	子どもの身近に本がある環境づくりをします	11
	2-1 地域全体における読書環境の整備	
	2-2 図書館における読書環境の整備	

第4章 資料編

1	読書アンケート結果	13
----------	-----------	----

第1章 基本的な考え方

1 計画策定の趣旨と背景

国は、「子どもの読書活動の推進に関する法律¹(平成13年12月12日法律第154号)」において、読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」という基本理念を掲げ、社会全体でその推進を図っていく必要性を示しました。平成14年8月には、同法第8条第1項の規定に基づき、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(「第1次基本計画」)」を策定し、平成30年には「第四次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を定めました。

北海道においても、平成15年11月に「北海道子どもの読書活動推進計画(第一次計画)」を策定し、平成30年3月に第四次計画を定めています。

幕別町では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されたのを受け、平成16年3月に「幕別町子どもの読書活動推進計画(「第1期計画」)」を策定しました。第1期計画終了後の平成23年4月には、「第2期幕別町子どもの読書活動推進計画(第2期計画)」、平成30年4月には「第3期幕別町子どもの読書活動推進計画(第3期計画)」を策定し、幕別町のすべての子どもがあらゆる機会、あらゆる場所で、自主的に読書活動を行うことができるよう取り組みを進めてきました。

第4期の計画では、これまでの取組の成果と課題を検証し、第1期から第3期計画の基本理念を継続するとともに、「第3期計画」中に策定された関連する計画及び社会情勢の変化を踏まえ、総合的・計画的に子どもの読書活動を推進するため、新たに推進計画を策定するものです。

2 基本理念

幕別町のすべての子どもがあらゆる機会、あらゆる場所で、主体的・能動的に読書活動を行うことができるよう、地域全体で連携し読書環境を整えていきます。

¹ 「子どもの読書活動の推進に関する法律」。子どもの健やかな成長に資するため、子どもの読書活動の推進に関する基本理念、並びに国及び地方公共団体の責務等を示した法律

3 計画の性格

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づくものであるとともに、「幕別町生涯学習中期計画」の個別計画として位置づけ、学校、図書館、地域などの関係機関・団体等が連携・協力し、子どもの読書環境の整備に取り組む方向性を示すものです。

4 計画の期間

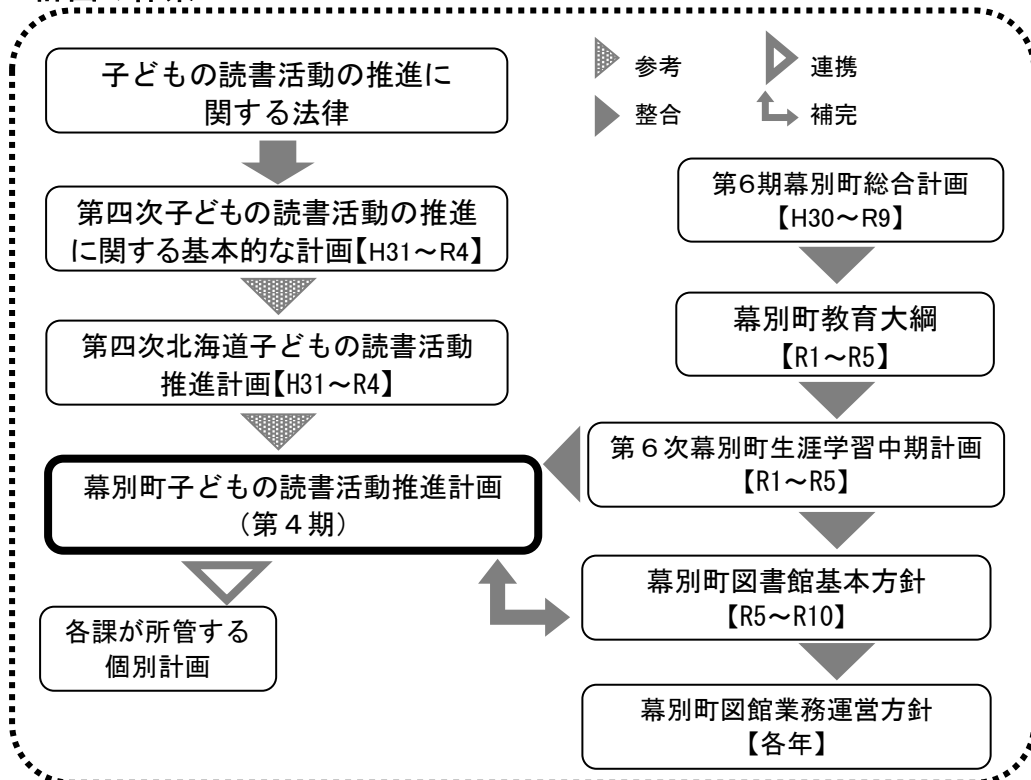
令和5年度から10年度までの6カ年計画とし、計画の進捗状況、効果を検証し、内容の見直しを行います。

5 計画の対象

計画の対象は、おおむね18歳以下としますが、家庭・地域・図書館・学校等、子どもの読書活動と関わりのある地域住民・団体も対象とします。

また、子どもの読書活動は、発達の段階に応じて取り組むことが重要であることから、乳幼児期・小学生期・中学生期・高校生期の大きく4つの期間に区分し、各期における特徴に応じた方策を推進します。

6 計画の体系



第2章 「第3期計画」の成果と課題

1 アンケート調査より アンケートから見た現状と課題

「第3期計画」では、進捗状況や成果を客観的に判断するための材料の一つとして、計画の指標を設定しています。その達成状況等を把握するため、町内に在学する児童及び生徒に対し、読書に関するアンケート、「読書アンケート²」を実施しました。また、全小中学校の学校図書館の訪問による聞き取り調査も実施しました。

「本を読むのが好きですか」という質問では、「好き」と回答した小学生の割合が56%から49%、中学生が46%から36%といずれも第3期策定時より減少しています。一方で、1日当たり15分以上読書する子どもの割合は、小学生が70%から80%、中学生が66%から74%と増加していることから、読書をする要因が多様化していることがうかがえます。

また、学校図書館・学校図書室及び公共図書館に月1回以上行く子どもの割合が激減しているのは、新型コロナウイルス感染症の拡大による学校図書館や公共図書館の休館、利用制限が主な原因と考えられます。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う新しい生活様式の確立等、子どもの読書環境は急激に変化しています。GIGAスクール構想³による児童生徒の1人1台端末のICT環境を活用した学校図書館の積極的な活用、「読書バリアフリー法⁴」の制定により、公共・学校図書館等で、視覚障害者等が利用しやすいメディアの充実と円滑な利用のための支援が行われるよう必要な施策を講ずることとなる等、今後、多種多様な読書の方法に対応できる方策が求められることが推察されます。

	H29年度	R4年度目標値	R4年度実績値
読書が好きな子どもの割合	小学生 56%	小学生 60%	小学生 49%
	中学生 46%	中学生 50%	中学生 36%
普段、1日当たり15分以上読書する子どもの割合 ※H29は平日と休日の読書時間の平均値	小学生 70%	小学生 80%	小学生 80%
	中学生 66%	中学生 80%	中学生 74%
普段、学校図書館・学校図書室に月1回以上行く子どもの割合	小学生 72%	小学生 80%	小学生 70%
	中学生 47%	中学生 50%	中学生 37%
普段、幕別町図書館（全館）に月1回以上行く子どもの割合	小学生 31%	小学生 35%	小学生 22%
	中学生 18%	中学生 20%	中学生 10%

² 「第4章 資料編」を参照

³ 1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく公正に個別最適化された資質・能力を育む教育環境を実現することを目指した文部科学省の施策

⁴ 正式名称「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（令和元年法律第49号）」。障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするための法律

2 成果と課題

2-1 「第3期計画」の成果

(1) 未就学児・未就学児の保護者を対象とした取組 ◎は「第3期計画」からの取組

【マイファーストブックサポート事業の拡充】

- 7・8ヵ月乳児健診時に絵本及び絵本バッグのプレゼントと、赤ちゃんへのおすすめ絵本セット(1セット5冊)の貸出を行う「マイファーストブックサポート」を実施しました。
- ◎ 絵本バッグは、中札内高等養護学校との連携事業において、授業の作業学習を活用し制作しています。あわせて、生徒がおすすめする絵本の紹介コーナーを設置しました。
- ◎ 7・8ヵ月乳児健診のフォローアップとして、親子で本に触れるきっかけ作りを目的とし、1歳6ヵ月児健診会場において、司書による読み聞かせや会場貸出用の絵本セット「おうち絵本セット」の紹介・貸出を行いました。
- ◎ 7・8ヵ月乳児健診のフォローアップとして、1歳6ヵ月から3歳児の保護者向けの貸出セット「おひぎでブック(絵本と子育てに関する本、1セット5冊)」を各館に配置し貸出しました。
- ◎ 図書館本館において、ボランティアとの共催による0～3歳児向けのおはなし会を開催しました。

【移動図書館を活用した読書活動支援】

- 各保育・幼稚園を巡回し、個人及び団体への貸出を行いました。
- ◎ おすすめ本をセットにした「団体貸出セット」を貸出しました。

【地域等と連携した読書活動支援】

- ◎ 子育て支援センターに訪問し、「子育て講座」のテーマに合わせた図書の展示・貸出を行いました。
- ◎ 子育て支援センターあおば分室の開放日(きりんの日)における読み聞かせ及び子育て関連図書の貸出を実施しました。
- ◎ 子育て支援センター主催「移動あそびの広場」を図書館本館で開催しました。
- ◎ 子育て相談で訪れる機会が多い公共施設に貸出用図書を常設するよう努めることを目的とし、札内コミプラでの絵本コーナーの設置及び貸出を実施しました。

(2) 小中学生を対象とした取組 ◎は「第3期計画」からの取組

- 十勝東部4町の図書館との交流連携事業として、4町の図書館を巡回する読書に関わるイベントを開催しました。
- ◎ 「POPコンテスト」、「ハロウィンイベント」「ぬいぐるみお泊り会」、「絵本作家ワークショップ」等、本を媒体にしたさまざまな取組を行うことで、本を手にするきっかけをつくることを進めました。
- ◎ 中・高校生向けブックリスト「はざま通信」を作成・配布しました。
- ◎ 団体貸出用の資料を購入し、「朝読セット」「科学が好きになるセット」など、多様化するニーズに応えるセットの貸出をしました。
- ◎ ICTツールを活用した独自の児童向けの郷土資料編集とデジタル化の実現を目指し、AR(拡張現実)機能を活用した幕別町の紹介「歴史の散歩道」を公開しました。

(3) 学校図書館・公共図書館の整備・充実 ◎は「第3期計画」からの取組

- ◎ 公共図書館全館において、図書の衛生管理のため、書籍消毒機を導入しました。
- 小中学校の学校図書館を訪問し、除架・除籍の支援を実施しました。
- 担当教員の負担軽減を目的とし、中学校の図書登録の支援を行いました。
- ◎ 高校の学校図書館の運営相談及び連携企画を実施しました。
- ◎ 公共図書館各館において、在宅における読書活動を支援するため、専用の図書を購入し、セットによる小学校への学級単位での団体貸出(個人宅への持ち出し可能)を実施しました。
- ◎ 公共図書館各館において、在宅における読書活動を支援するため、専用の図書を購入し、おすすめ本をセットにして設置・貸出を行いました。

(4) 子どもの読書活動を進める体制の整備 ◎は「第3期計画」からの取組

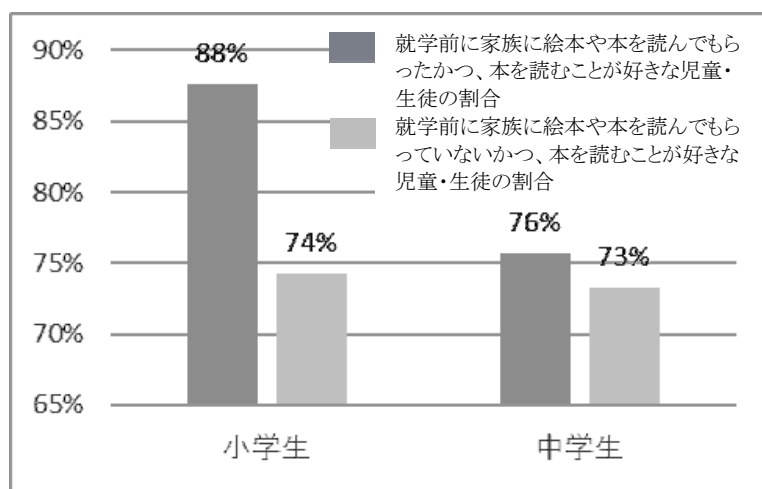
- ◎ 子育て支援センターでの図書館活用術講座、性教育に関する図書展示等、保健課やこども課と連携し、図書館の本を活用した子育てに関する講座等を実施しました。
- ◎ 発達支援センター、保健課、子育て支援センター、図書館の4者による「未来の子育て支援会議」において、各課事業の課題及び現状の支援策の充実を図るための協議を開催しました。
- ◎ 幕別町の子育てに関する情報発信を目的とし、子育て応援サポートブック「まくはぐ」をARに対応させ、動画による紹介を行いました。
- ◎ 一部の学校図書館及び公共図書館において、読み聞かせボランティアによる定期的な読み聞かせを行い、その必要性を啓発しました。

(5) 読書意欲を高める事業と広報の推進 ◎は「第3期計画」からの取組

- ◎ 子ども向けの「図書館だよりスワディ」を年2回発行し、公共図書館の行事と本の紹介を行いました。
- ◎ 「テーブルトークRPG」を活用した郷土を知る事業「まくべつテーブルトークRPG」、絵本作家のかとうまふみ氏によるしかけ絵本づくり等、子ども向けの文章に親しむ講座を実施しました。
- ◎ 図書館見学、職場体験等、職業教育に対する支援をしました。
- ◎ 一部の学校図書館及び公共図書館において、読み聞かせボランティアによる定期的な読み聞かせを行い、その必要性を啓発しました。
- ◎ 町内各交番・駐在所とのコラボ企画において、詐欺被害防止の標語及び新図書館キャラクターを募集する等、他機関と連携することで、新たな切り口による読書活動の推進を図りました。
- 本を紹介カード「POP」のコンテストを開催し、本を手にするきっかけづくりを推進しました。

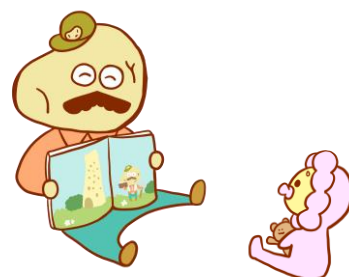
2-2 「第3期計画」の課題

- 他課との連携を深めることで、未就学児・未就学児の保護者を対象とした取組の充実を図ることができました。「読書アンケート」においても、「本を読むことが好きですか?」という設問で、家庭における読み聞かせの頻度の高い児童・生徒が「本を読むことが好き」と回答する割合が高いことから、マイファーストブックサポート等、乳幼児とその保護者を対象としたさらなる取組が必要です。



※幕別町 『読書アンケート (R4 幕別町教育委員会)』より

- 小中学生を対象とした取組は、事業数及び学校・公共図書館への来館数から、その取組の拡がり不十分であることがうかがえます。「読書アンケート」では、本を読むきっかけの一因として、「朝の読書」など一斉時間があることがあげられることから、学校図書館と公共図書館が連携した取組を行うことで読書活動の推進につながると考えられます。
- 国の学校図書館図書標準を踏まえ、図書資料の整備・充実を計画的に進めました。令和4年度の学校図書館の図書蔵書達成率は、小学校では119%、中学校では100%と、目標値を達成していますが、情報が古く、時勢に合わない資料の除架・除籍が進められていないのが現状であることから、新鮮かつ利用できる蔵書構成を検討していくことが重要です。そのためには、公共図書館や地域ボランティア等による継続的な支援が必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大による自宅での読書機会の増加にあたり、学校への「団体貸出セット(自宅への持ち帰り可)」及び公共図書館常設のおすすめ本セット「貸出セット」を充実させる等、社会状況の変化に応じた読書活動を推進しました。「読書アンケート」において、本を読むきっかけの一因として、「家のなかで、手に取りやすいところに本がある」と回答する割合が高かったことから、本町においても、家庭での読書活動を通して家族のコミュニケーションを図る「家読(うちどく)」の推進が必要です。
- 子どもが読書意欲や読書習慣を身につけていくうえで、保護者、教職員、保育士など、子どもの身近にいる大人が読書活動に理解と関心を持つことが重要です。学校図書館におけるボランティアの協力等により、読書活動推進につながる取組を行うことで、地域との関わりを創出する機会づくりに努めることが必要です。
- 公共図書館においては、図書資料の整備が要となります。乳幼児期から高校生期までの各期の子どもに本に親しんでもらうため、子どもが興味・関心を持つ図書資料の収集に努めます。また、「読書バリアフリー法」に基づき、資料及び施設を整備し、あらゆる子どもの読書活動を支援する必要があります。



第3章 子どもの読書活動推進のための方策

子どもの主体的・能動的な読書活動を習慣化するには、家庭・地域・学校等、社会全体で読書を推進する取組を進める必要があります。そのためには、家庭・地域・学校等のそれぞれの役割を明確にするとともに、関係機関や団体等と連携・協力し、子どもの発達の段階に応じて多様な取組を進めていくことが重要です。

1 本と出会う機会をふんだんにつくります

1-1 家庭での読書活動の推進

【方策】

家庭は、子どもが最初に本と出会う場だけでなく、読書への関心や興味を持たせる上でも重要な役割を担っています。そのため、保護者に対して、家庭での読み聞かせや、一緒に本を読んだり、図書館へ出かけたりするなど、子どもが読書の時間を持つよう習慣づけることの重要性について理解を深めていくよう積極的な働きかけが必要になります。コロナ禍において、自宅での読書機会の重要性が再認識されたことから、家庭での読書活動を通して家族のコミュニケーションを図る「家読(うちどく)」をさらに推進する取組を行います。

【推進方策① マイファーストブックサポート事業に関わる取組】 ◎は新規事業

- 7・8カ月乳児健診時の絵本及び絵本バッグのプレゼントと、赤ちゃんへのおすすめ絵本セットの貸出を行う「マイファーストブックサポート」を継続します。
- フォローアップ事業として、小学校期までの各月齢における絵本セットの貸出等、本と触れ合う機会づくりを進めます。
- ◎ 乳幼児期の読書習慣を継続することを目的として、小学校入学時における読書活動を推進する事業を検討します。

【推進方策② 親子で本を楽しむ取組】 ◎は新規事業

- 0～3歳児向けのおはなし会等、親子で本を楽しむ機会を提供します。
- 保護者を対象とした絵本や読み聞かせ、手遊び等の講座を実施します。
- 子育て支援センターの「移動あそびの広場」を図書館で開催し、司書による「絵本相談」を行うなど、本と読み聞かせの時間を楽しむ機会をつくります。
- 在宅における読書活動を支援するため、図書館で選書した小学校への学級単位での貸出(個人宅への持ち出し可能)をする「団体貸出セット」及び家庭向けのセット「貸出セット」の充実を図り、新たな本と出会うきっかけづくりをすることで、親子で本を語り合う時間の創出につなげます。

1-2 地域全体における読書活動の推進

【方策】

生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を身につけるためには、乳幼児期から発達段階に応じた読書活動が行われることが重要です。

- 乳幼児期は、絵本の読み聞かせなどをおしてさまざまことに興味や関心を広げる時期であり、保育士による読み聞かせやクラスメイト等、集団生活を送ることで本を手にする機会が増えることから、幼児が多様な本に触れる機会を増やします。
- 小学生・中学生・高校生期においては、学校図書館における多様な読書活動を工夫して、子どもが主体的・対話的に学び、考え、行動する力を身につけられるよう、感性を育む読書、情報活用能力の育成を図る読書の双方を重視した取組を推進します。
- 公共図書館は、子どもが家庭や学校以外において、気軽に読書を楽しんだり、学習をしたりすることのできる場所であり、子どもの読書活動の核となる場としての役割を担っていることから、関係機関との連携・協働を図るとともに、図書館機能を発揮できるよう人材を育成し、よりよいサービスを提供します。また、情報と人を結びつけ、子どもから大人までの地域住民が交流できるまちづくりの拠点として地域の実態に応じた活用を創出し、さらには、学校における調べ学習や探究活動の図書館職員による支援等、学校や学校図書館との連携をさらに進めていきます。

【推進方策① 移動図書館を活用した取組】 ◎は新規事業

- 保育所に対して実施した「読書アンケート」においては、移動図書館車での訪問が、本を楽しむための一貫となっていることがうかがえます。移動図書館車による定期的な巡回及び団体貸出とともに、年齢（クラス）にあわせた本や大型絵本の貸出等の読書活動を実施します。
- ◎ 移動図書館車が運行しない曜日、学校の夏季及び冬季休業期間に、イベント等で要望があった場合、移動図書館車が訪問して、貸出、読み聞かせをするサービスを積極的に周知し活用します。
- 「朝読セット」「科学が好きになるセット」等の図書館で選書した小学校への学級単位での貸出(個人宅への持ち出し可能)をする「団体貸出セット」の充実を図ります。
- ◎ 移動図書館車の車載図書を巡回コースにあわせて入替することに努めます。

【推進方策② 地域が連携した取組】 ◎は新規事業

- 母子手帳配布時に渡す育児に関する本のリストの定期的な更新、7・8ヵ月健診時における絵本・絵本バッグのプレゼント及びおすすめ絵本セット「おためし絵本セット」の貸出、「マイファーストブックサポート事業」を継続して実施します。フォローアップ事業として、1.6歳児健診会場におけるおすすめ本セット「おうち絵本セット」の貸出、3歳児健診における図書展示と本のリスト配布など、保健課と連携した年齢にあわせた本の紹介を積極的に行います。
- 図書館における「マイファーストブックサポート事業」のフォローアップ事業として、子育てに関する本と絵本をセットにした「おひぎでブック」を公共図書館の各館に設置し、適切に更新します。
- 子育て支援センターの「子育て講座」におけるテーマにあわせた出前図書展示・貸出、「開放の日事業」における出前図書展示・貸出及び読み聞かせ、「移動あそびの広場」の図書館での開催等、子育て支援センターとの連携事業を深めます。
- 子育て支援センター、発達支援センター等、子どもが本に触れる機会がある施設に、季節や生活にあわせた展示用図書の貸出を行います。
- LGBTQ+、子どもの権利条約、性教育等、社会状況にあわせた図書展示を関係課と連携して実施します。
- 読み聞かせや破損図書の修理等、本と人をつなげるボランティア活動をするサポーターと連携した読書活動を進めるとともに、その人材育成及び発掘に努めます。
- ◎ 児童生徒1人1台端末のICT環境の活用を目的とし、POPコンテストや「はざま通信」の原稿応募を呼びかける等、本を媒体としたICTツールの活用に取り組みます。
- ◎ 国語の「音読」の取組を展開した「音読コンテスト」、意見発表の町民文芸誌への掲載等、授業から広げた読書活動に取り組みます。
- ◎ 学校において図書館の資料を展示する展示会を開催し、多種多様な本に触れる機会づくりをします。

2 子どもの身近に本がある環境づくりをします

読書活動を推進するためには、いつでも、どこでも本を手にとれたり、必要な情報を調べたりすることができる読書環境づくりが必要です。そのためには、家庭・地域・学校、関係機関や団体等が相互に連携したり、支援したりしながら、計画的に整備を進めることが重要です。

2-1 地域全体における読書環境の整備

【方策】

- 幼稚園・保育所、子育て支援センター等、子どもが本に触れる機会がある施設において、さまざまな本と出合うことのできる読書環境を整備します。
- 学校図書館は、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能とともに、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有しています。そのため、学校図書館は、十分に機能を発揮することができるよう、学校図書館図書標準に沿った資料を備え、子どもが活用しやすい環境を整備するとともに、地域ボランティアも含めた学校図書館に携わる人員の配置及び資質向上を目指します。

【推進方策① 地域が連携した環境整備】 ◎は新規事業

- 子どもとその保護者等が本に触れる機会がある施設に、季節や生活にあわせた展示用図書の貸出を行います。
- 「学校図書館図書整備等5か年計画⁵」の達成を目指し、子どもの活動状況に合わせた学校図書館運営を実施できるよう、学校図書館司書の配置を検討します。
- 小中学校及び高校の図書館において、情報が古い本、時勢に合わない本などを除架・除籍し、子どもの多様化するニーズに対応する資料の受入をするなど、計画的な図書の整備を行い、蔵書内容の充実を支援します。
- 学校図書館の担当者との意見交換会や運営マニュアルの作成等、定期的な学校図書館運営支援を行います。
- ◎ 各校の図書委員と連携したイベント等を実施し、読書活動を推進します。
- 図書館や身近な存在である保護者等によるボランティアとの連携・協力により、子どもたちの読書環境の充実に努めます。

⁵ 公立小中学校等の学校図書館における学校図書館図書標準の達成、計画的な図書の更新、新聞の複数紙配備、学校司書の配置拡充が図られることを目的とした地方財政措置が講じられた文部科学省の計画

- ◎ 特別な支援が必要な児童生徒が、豊かな読書活動を体験できるよう、その状況に応じた機器及び資料整備とともに、地域全体でさまざまなサービスのあり方について検討を進めます。

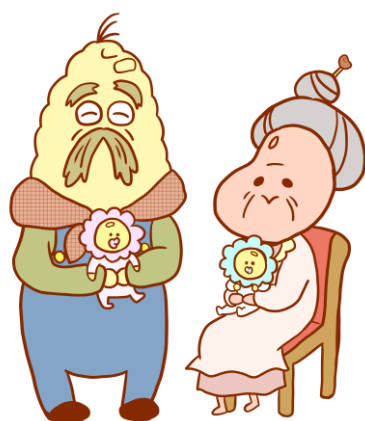
2-2 図書館における読書環境の整備

【方策】

公共図書館は、子どもの読書活動の核となる場としての役割を担っていることから、関係機関・団体等とも相互に連携しながら、望ましい読書環境づくりを進めます。

【推進方策① 図書館における環境整備】

- 全保育所・全小学校へ移動図書館を巡回させるなど、町内全域に図書館サービスが行き届くよう、身近に本がある環境づくりを進めます。
- 司書・図書館サポーターが、学校の読書活動の状況に合わせ、ブックトーク・ビブリオバトル・POP講座など、出前講座等を開催し、読書活動を推進します。
- 学校と協働で事業を実施し、子どもたちの主体的な読書の意欲を高め、本との出合いの幅が広がるよう努めます。
- 子どもの読書週間・秋の読書週間に、参加型のイベントを開催し、本に興味を持つ契機につなげます。
- 点字図書、音声図書、拡大図書など、障がいのある子どもでも利用しやすいアクセシブルな書籍や設備の整備を推進します。



第4章 資料編

1 読書アンケート結果

- 調査の時期 令和4年9月
- アンケートの対象 小学校9校(1,365人)、中学校5校(684人)に対し実施
回答数は、小学生1,286人(回答率96%)、中学生576人(回答率87%)
- アンケート結果 (%表示)

Q1. あなたは、本を読むのが好きですか？

	小学生			中学生		
	平 23	平 29	令4	平 23	平 29	令4
好き	58	56	49	43	46	36
どちらかといえば好き	28	32	35	42	37	39
どちらかといえば嫌い	9	8	10	12	12	19
嫌い	4	4	5	3	4	6
無回答	1	0	1	0	1	0

Q2. あなたは、1日にどのくらいの時間、本を読みますか？(教科書、参考書、マンガ、雑誌、マンガ雑誌除く)

	小学生			中学生		
	平 29 学校	平 29 休日	令4	平 29 学校	平 29 休日	令4
みない	27	32	19	25	42	26
15分くらい	42	24	35	42	15	39
30分くらい	18	17	24	19	14	21
1時間くらい	7	14	12	8	13	7
2時間くらい	2	4	5	2	7	5
3時間くらい	1	2	1	1	2	1
3時間以上	2	4	3	2	4	1
無回答	1	3	1	1	3	0

Q3. あなたは、普段どのくらい図書館に行きますか？

			行かない	年に1回	半年に1回	月1回	2週間に1回	週に1回	週に2,3回	ほぼ毎日	無回答
学校図書室	小学生	平29	8	7	9	17	11	14	19	13	2
		令4	10	9	10	17	11	14	19	9	1
	中学生	平29	30	7	13	17	9	8	9	5	2
		令4	40	9	13	11	6	7	8	5	1
移動図書館	小学生	平29	47	9	6	13	13	3	2	1	6
		令4	58	10	5	9	6	3	2	4	3
	中学生	平29	91	2	1	1	0	0	0	0	5
		令4	94	1	1	0	0	0	0	0	4
図書館	小学生	平29	33	16	15	15	7	4	4	2	4
		令4	48	15	12	9	6	3	3	1	3
	中学生	平29	40	15	22	12	3	2	1	0	5
		令4	59	17	12	7	1	1	1	0	2

Q4. あなたが、本を読む「きっかけ」があったら、教えてください(複数回答)

	小学生		中学生	
	平29	令4	平29	令4
家の人が一緒に本を読んだり、図書館に連れていってくれたりする	9	8	7	5
家のなかで、手に取りやすいところに本がある	11	13	12	13
友達が、本をすすめてくれたり、貸したりしてくれる	11	6	12	8
学校の先生が、おすすめの本を教えてくれる	3	4	2	2
読み聞かせをしてくれる人が、おすすめの本を教えてくれる	4	4	1	0
学校の「朝の読書」など、みんなで本を読む時間がある	15	11	20	22
クラス文庫など、学校のなかで、手に取りやすいところに本がある	10	9	6	9
スワディ号がくること(令4小学生のみ)	—	9	—	—
教科書で関連する本が紹介されている	9	7	4	4
インターネット、新聞の広告などで、読みたい本を見つけた	6	5	9	10
好きな作家がいて、その人の作品を読んでいる	4	7	8	8
好きなジャンル、興味があるジャンルの本がある	5	14	16	17

その他	11	2	2	1
無回答	2	1	1	1

その他詳細 ※一部抜粋

【小学生】

- ・夜、お母さんが本を読んでいるので、いっしょに読んでいる
- ・図書委員、読みたい本を買ってくれる
- ・本を読むのが好きだから
- ・小さいときにお母さんがよみきかせしてくれる
- ・自分のならいごとと、同じ本がある
- ・おかあさんがよんでた本をよむとおもしろかったから（家族に本をすすめられた）
- ・国語の力がつくらしいから
- ・糠内っ子のプロフィールにその人の好きな本がかいてあった 本のうらのページ
におすすめがあった
- ・図書室があるから
- ・図書館にいったら読みたい本があった
- ・おもしろい本があったからよむようになった
- ・家にある本を見てみたらおもしろいからすき

【中学生】

- ・じゅくの先生におしえてもらう
- ・知りたいことや調べたいことがある
- ・兄の読んでいた小説をよんだ
- ・自主的にお父さんの本を貸してもらっている
- ・母親がよく買ってきてくれる
- ・一人の時間がほしいとき

Q5. あなたは、家の人に絵本や本を読んでもらったことがありますか？

	小学生			中学生		
	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
平 23 読み聞かせの有無	73	25	2	57	42	1

	小学生									
	就学前					就学後				
	頻繁に あった	時々 あった	滅多に ない	無い	無 回答	頻繁に あった	時々 あった	滅多に ない	無い	無 回答
平 29	44	30	13	12	1	7	14	17	58	4
令 4	40	33	13	12	2	8	15	19	50	8
	中学生									
	就学前					就学後				
	頻繁に あった	時々 あった	滅多に ない	無い	無 回答	頻繁に あった	時々 あった	滅多に ない	無い	無 回答
平 29	45	29	13	11	2	6	12	28	50	4
令 4	40	29	18	12	1	4	17	29	44	6